

# 「まちなか里山ブイブイの森」 いつまでも親しむために

## ブイブイの森（南公園）とは？

ブイブイの森（写真1）とは三田市狭間が丘1丁目に位置する面積15.1haを有する風致公園「南公園」の愛称で、フラワータウンに隣接しています。ブイブイの森は、三田市のニュータウン開発（フラワータウン）の以前から残る三田の自然・環境・生物相を残す貴重な植生で、三田市の緑の基本計画では三田市の貴重な自然28地点のうちの一つとして位置づけられているほか、「未来に伝えたい三田の自然～生態系レッドデータブック～」でも重要な中生態系のBランクとして位置づけられています。

## まちなか里山保全プロジェクトのはじまり

平成20年に管理主体が三田市に移管されたことを契機に、南公園の里山林づくりの基本方針と施策の方向性の検討が始まり、当館はその構想段階からプロジェクトに参画しています。

平成22年度から23年度にかけては南公園の植生の現状を把握し、基本方針と施策立案



写真1  
ブイブイの森（南公園）の概観（秋）の様子。敷地内には3つのため池



写真2  
ブイブイの森（南公園）の公開を前に整備された散策道。間伐材をチップ化して敷設している

のための基礎データの収集する調査を当館が主体となって行いました。その結果、南公園の面積の約5割をコナラ二次林が占める夏緑二次林型の里山林であり、少なくとも273種の植物が分布していることが明らかになりました。

このように豊かな生物多様性を育てている南公園ですが、調査ではコナラ二次林の林内は照葉樹の繁茂が進み暗い環境が広がっていること、南公園にあるモウソウチクやマダケの竹林が面積を拡大する傾向にあり、コナラ二次林内に進入していることなども確認され、このまま管理が放棄されると南公園の豊かな生物多様性が損なわれる可能性が高いことも明らかになりました。

そこで、生物多様性の保全を基礎におきつつ、ニュータウンに隣接している特性を活かして、地域の景観を楽しみ、身近な自然を学べる環境学習の場としての機能を有する「まちなか里山」として整備する基本方針を平成24年度末に三田市が定め、以後、協働で環境整備や里山管理を実施する事となりました。

## プロジェクトの成果とこれから

南公園は風致公園であったため、散策道や里山管理道などが整備されておらず、市民が立ち入れない場所となっていました。そこで平成25年度には三田市によって簡易な道の整備が行われました（写真2）。また南公園の魅力を広く伝えるセミナーを平成23年度からひとはと三田市が共催、平成25年度からは里山の保全に協力して下さる人々に里山の基礎知識や管理技術、安全管理の知識を提供する連続セミナー仲間を増やすことを目的とした里山講座を実施しています（写真3）。具体的にどの場所をどう管理するかについても受講生と話し合い、おおまかな管理計画が策定されています（写真4）。平成26年度末には三田市が事



写真3  
平成25年から開講している里山講座の様子。左から植物観察会、植生調査実習、伐採管理実習（右ふたつ）の様子。多くの方が熱心に参加されている。

今後は、修了生とともに地域の方々にブイブイの森の魅力を発信するとともに、近隣の小学校などのブイブイの森での環境体験学習（写真5）を支援できないか検討して行く予定です。



写真4  
ワークショップ形式で南公園の管理計画を里山講座修了生と検討し、大まかな管理計画を策定している。



写真5  
三田小学校3年生とともにブイブイの森を散策、植物を観察し、標本採集する環境学習を実施

三田市南公園 まちなか里山保全プロジェクトの支援

代表者：橋本佳延

分担者：黒田有寿茂、石田弘明、赤澤宏樹、上田萌子、大谷雅人

協力団体：三田市公園みどり課

財源：受託研究費